

業務及び財産の状況に関する説明書

【令和2年3月期】

この説明書は、金融商品取引法第46条の4の規定に基づき、全ての営業所若しくは事務所に備え置いて公衆の縦覧に供するため、又はインターネット等で公表するために作成したものです。

益 茂 証 券 株 式 会 社

I. 当社の概況及び組織に関する事項

1. 商 号 益茂証券株式会社

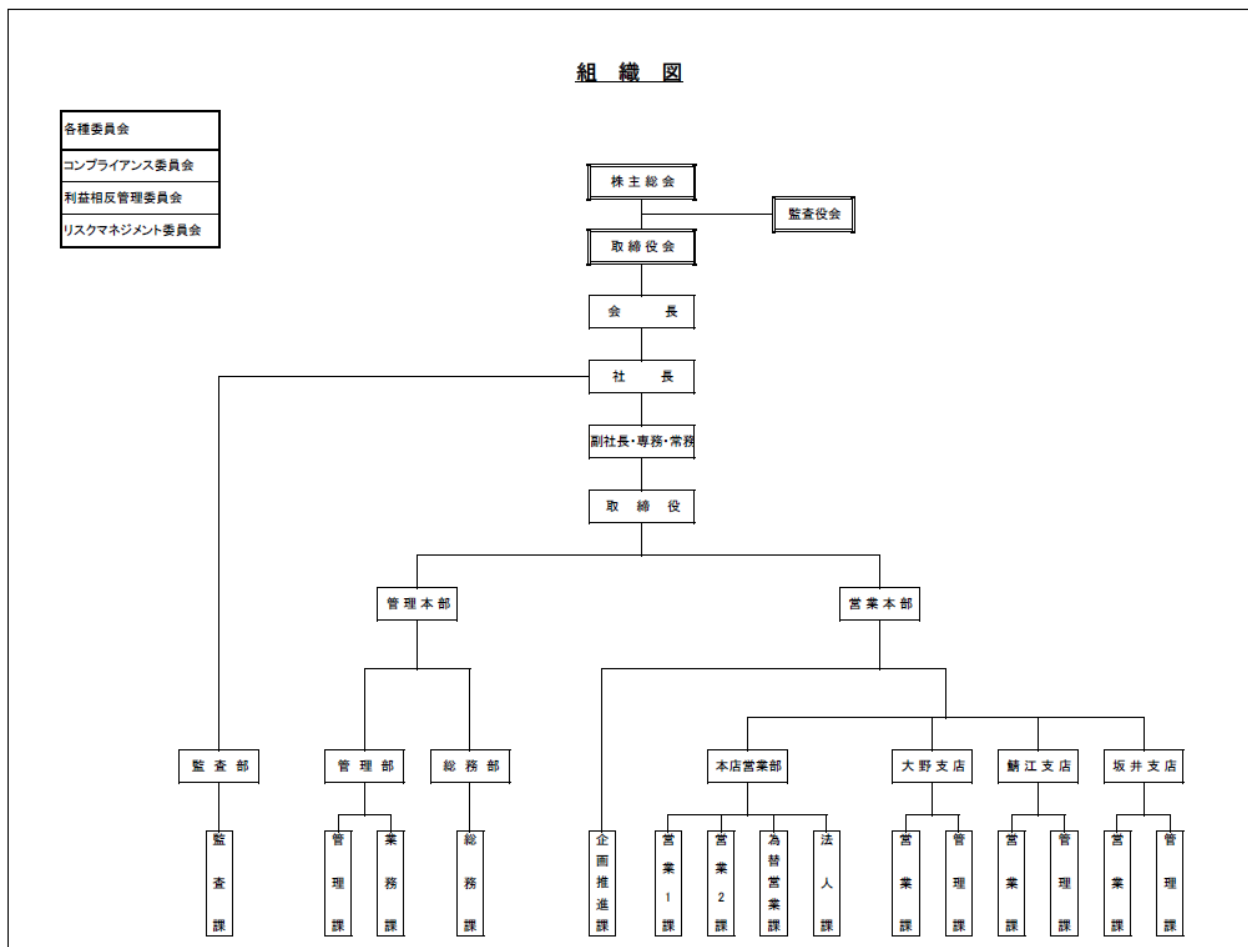
2. 登録年月日 平成 19 年 9 月 30 日
(登録番号) (北陸財務(支)局長(金商)第 12号)

3. 沿革及び経営の組織

(1) 会社の沿革

年 月	沿 革
明治 06 年 01 月	益茂両替店を創業
昭和 20 年 01 月 11 日	益茂証券株式会社を設立
昭和 35 年 02 月 15 日	勝山出張所を開設
昭和 43 年 03 月 31 日	勝山出張所を廃止
昭和 50 年 03 月 17 日	本店を移転
昭和 54 年 12 月 17 日	大野営業所を開設
昭和 56 年 10 月 17 日	鯖江営業所を開設
昭和 60 年 04 月 01 日	三国営業所を開設
昭和 63 年 10 月 03 日	小松営業所を開設
平成 03 年 04 月 01 日	金沢営業所を開設
平成 09 年 06 月 27 日	金沢営業所を小松営業所に統合
平成 18 年 10 月 02 日	大野営業所が大野支店へ昇格 鯖江営業所が鯖江支店へ昇格
平成 18 年 11 月 01 日	店頭外国為替証拠金取引事業を開始
平成 20 年 10 月 01 日	三国営業所が三国支店へ昇格 小松営業所が小松支店へ昇格
平成 22 年 12 月 01 日	小松支店を三国支店に統合
平成 30 年 08 月 27 日	三国支店を坂井支店として新築移転
令和元年 05 月 13 日	取引所為替証拠金取引(くりっく 365)取扱開始
令和元年 10 月 01 日	店頭外国為替証拠金取引(MASUMO-FX)取扱終了

(2) 経営の組織



4. 株式の保有数の上位 10 位までの株主の氏名又は名称並びにその株式の保有数及び総株主等の議決権に占める当該株式に係る議決権の数の割合

氏名又は名称	保有株式数	割合
1. 益永 哲郎	622,800 株	37.07%
2. 益茂ビル株式会社	410,150 株	24.41%
3. 株式会社岡三証券グループ	117,600 株	7.00%
4. 益永 員子	90,200 株	5.36%
5. 岡三興業株式会社	84,200 株	5.01%
6. 益永 茂樹	78,750 株	4.68%
7. 石橋 文恵	52,500 株	3.12%
8. 岡三証券株式会社	33,600 株	2.00%
9. ハート真由美	32,300 株	1.92%
10. 五十嵐 美由希	32,300 株	1.92%
その他 (12 名)	125,600 株	7.51%
計 22 名		100.00%

5. 役員の名義又は名称

役 職 名	氏名又は名称	代表権の有無	常勤・非常勤の別
代表取締役会長	益永 哲郎	有	常 勤
代表取締役社長	木内 幹男	有	常 勤
常務取締役	山田 悟	無	常 勤
取締役	安田 祐二	無	常 勤
監 査 役	島田 敏夫	無	常 勤
監 査 役	青垣 智則	無	非常勤
監 査 役	大澤 義人	無	非常勤

以上 7 名

6. 政令で定める使用人の氏名

(1) 金融商品取引業に関し、法令等（法令、法令等に基づく行政官庁の処分又は定款その他の規則をいう。）を遵守させるための指導に関する業務を統括する者（部長、次長、課長その他いかなる名称を有する者であるかを問わず、当該業務を統括する者の権限を代行し得る地位にある者を含む。）の氏名

氏 名	役 職 名
福岡 敏幸	執行役員管理本部長
濱田 郁雄	管理部長代理

(2) 投資助言業務（金融商品取引法（以下「法」という。）第 28 条第 6 項に規定する投資助言業務をいう。）又は投資運用業（同条第 4 項に規定する投資運用業をいう。）に関し、助言又は運用（その指図を含む。）を行う部門を統括する者（金融商品の価値等（法第 2 条第 8 項第 11 号ロに規定する金融商品の価値等をいう。）の分析に基づく投資判断を行う者を含む。）の氏名

氏 名	役 職 名
該当ありません	

7. 業務の種類

(1) 金融商品取引業

法第 28 条第 1 項第 1 号に掲げる行為に係る業務

法第 28 条第 1 項第 3 号ロに掲げる行為に係る業務

法第 28 条第 1 項第 3 号ハに掲げる行為に係る業務

有価証券等管理業務

第二種金融商品取引業

（注）法第 28 条第 1 項第 2 号に掲げる行為に係る業務については、令和元年 10 月 1 日に廃止

(2) 金融商品取引業付随業務

有価証券の貸借又はその媒介若しくは代理業務

信用取引に付随する金銭の貸付業務

保護預り有価証券担保貸付業務

有価証券に関する顧客の代理業務

受益証券に係る収益金、償還金及び解約金の支払いに係る代理業務

投資証券等に係る金銭の分配、払戻金及び残余財産の分配並びに利息及び償還金の支払いに係る代理業務

累積投資契約の締結業務

有価証券に関連する情報の提供又は助言(法第2条第8項第11号に掲げる行為に該当するものを除く。)業務

他の金融商品取引業者の業務の代理業務

(3) その他の業務

生命保険の募集に関する業務

不動産の賃貸業務

8. 本店その他の営業所又は事務所の名称及び所在地

名 称	所 在 地
本 店	〒910-0006 福井市中央3丁目5番1号
大野支店	〒912-0052 大野市弥生町3番11号
鯖江支店	〒916-0053 鯖江市日の出町2番1号
坂井支店	〒919-0419 坂井市春江町随応寺東35

9. 他に行っている事業の種類

該当ありません。

10. 苦情処理及び紛争解決の体制

【第一種金融商品取引業】

「特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター (FINMAC)」と、手続実施基本契約を平成23年4月1日に締結

11. 加入する金融商品取引業協会及び対象事業者となる認定投資者保護団体の名称

「日本証券業協会」

「一般社団法人 金融先物取引業協会」

12. 会員又は取引参加者となる金融商品取引所の名称又は商号

該当ありません。

13. 加入する投資者保護基金の名称

「日本投資者保護基金」

II. 業務の状況に関する事項

1. 当期の業務の概要

当期の国内株式市場は、前半は、米中間の貿易摩擦や英国の欧州連合離脱問題、また日韓関係の悪化懸念など不透明な外部環境のなか、国内景気や企業収益の見通しなどに対する強気・弱気の投資家心理が交錯して、株価は上値の重い不安定な動きとなりました。後半、米中問題を巡る関係の落ち着きなどから市場にやや安心感が戻り、緩やかな上昇が年末まで続きましたが、年が明けてから、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大、それに伴う景気減速懸念、円高ドル安の進行など背景に、株式市場は歴史的な暴落相場となりました。

こうした環境のなか、日経平均株価は、米中通商協議の動向や先進国の金融政策を意識しながら、概ね20,000～22,000円を中心とするレンジで推移したのち、年末にかけては米中協議の部分合意が形成されたことが伝わり、約1年2ヶ月ぶりの高値となる24,115円まで上昇しました。しかしその後、一転して急落、3月19日には16,358円まで大幅な下落となり、18,917円01銭で当年度の取引を終えました。

このような状況下のもと、当年度における当社の営業収益は、561,491千円（前期比：101.3%）、営業利益は、249千円、税引前当期純利益は、3,209千円、当期純利益は、2,010千円となりました。

当期の配当につきましては、1円とする予定です。

2. 業務の状況を示す指標

(1) 経営成績等の推移

(単位：千株・千円)

	平成30年3月期	平成31年3月期	令和2年3月期
資本金	515,000	515,000	515,000
発行済株式総数	1,680	1,680	1,680
営業収益	670,904	553,760	561,491
(受入手数料)	626,284	493,304	509,144
((委託手数料))	474,302	350,863	347,852
((引受け・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の手数料))	0	0	0
((募集・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の取扱い手数料))	106,590	94,767	115,888
((その他の受入手数料))	45,391	47,673	45,403
(トレーディング損益)	16,326	32,231	23,292
((株券等トレーディング損益))	1,837	898	△316
((債券等トレーディング損益))	10,231	27,380	22,741
((その他のトレーディング損益))	4,257	3,951	867
純営業収益	645,357	527,968	543,710
経常損益	66,588	△22,545	2,766
当期損益	50,659	△29,028	2,010

(2) 有価証券引受・売買等の状況

① 株券の売買高の推移

(単位：百万円)

	平成30年3月期	平成31年3月期	令和2年3月期
自己	37	16	16
委託	49,274	37,675	37,215
計	49,312	37,691	37,232

② 有価証券の引受け及び売出し並びに特定投資家向け売付け勧誘等並びに有価証券の募集、売出し及び私募の取扱い並びに特定投資家向け売付け勧誘等の取扱いの状況

(単位：千株、百万円)

区分	引受高	売出高	特定投資家向け売付け勧誘等の総額	募集の取扱高	売出しの取扱高	私募の取扱高	特定投資家向け売付け勧誘等の取扱高
令和2年3月期	株券	0	0	0	0	2	0
	国債証券	0			0		0
	地方債証券	0			0		0
	特殊債券	0	0	0	0	0	0
	社債券	0	0	0	0	0	0
	受益証券				8,870	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0
平成31年3月期	株券	0	0	0	0	1	0
	国債証券	0			15		0
	地方債証券	0			0		0
	特殊債券	0	0	0	0	0	0
	社債券	0	0	0	0	0	0
	受益証券				3,766	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0
平成30年3月期	株券	0	0	0	0	4	0
	国債証券	0			7		0
	地方債証券	0			0		0
	特殊債券	0	0	0	0	0	0
	社債券	0	0	0	0	0	0
	受益証券				4,122	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0

(3) その他業務の状況

① 金融商品取引法第2条第8項に規定する金融商品取引業務

(単位：千円)

	受入手数料
令和2年3月期	2,988
平成31年3月期	199
平成30年3月期	168

(4) 自己資本規制比率の状況

(単位：%、百万円)

	平成30年3月期	平成31年3月期	令和2年3月期
自己資本規制比率(A/B×100)	443.6%	420.0%	472.2%
固定化されていない自己資本(A)	857	748	742
リスク相当額(B)	193	178	157
市場リスク相当額	14	10	9
取引先リスク相当額	40	24	14
基礎的リスク相当額	138	143	132

(5) 使用人及び外務員の総数

区 分	平成30年3月期	平成31年3月期	令和2年3月期
使用人	41人	42人	42人
(うち外務員)	41人	42人	42人

科 目	前 期 (平成31年3月31日現在)	当 期 (令和2年3月31日現在)
(資産の部)	金 額	金 額
【 固 定 資 産 】		
〔有形固定資産〕		
建 物	84,497	79,812
器 具 ・ 備 品	5,611	9,565
土 地	6,217	6,217
そ の 他	21,356	—
構 築 物	—	4,121
一 括 償 却 資 産	—	510
リ ー ス 資 産	—	15,367
〔有形固定資産計〕	117,683	115,594
〔無形固定資産〕		
電 話 加 入 権	2,868	2,868
ソ フ ト 開 発 費	5,433	6,411
〔無形固定資産計〕	8,302	9,279
〔投資その他の資産〕		
投 資 有 価 証 券	86,968	78,840
保 険 積 立 金	19,030	22,836
長 期 貸 付 金	35,428	33,749
長 期 差 入 保 証 金	8,092	8,092
長 期 前 払 費 用	21,795	1,133
前 払 保 険 料	—	24,714
長 期 預 託 金	—	2,300
敷 金	1,748	1,854
そ の 他	2,350	50
貸 倒 引 当 金	△19,481	△19,481
〔投資その他の資産計〕	155,932	154,089
【 固 定 資 産 計 】	281,917	278,963
資 産 合 計	4,035,314	3,881,311

科 目	前 期 (平成31年3月31日現在)	当 期 (令和2年3月31日現在)
(負債の部)	金 額	金 額
【流動負債】		
信用取引負債	979,744	678,105
(信用取引借入金)	955,697	664,568
(信用取引貸証券受入金)	24,046	13,536
預 り 金	1,639,139	1,865,592
(顧客からの預り金)	1,597,434	1,801,109
(その他の預り金)	41,704	64,483
受 入 保 証 金	271,916	220,501
(信用取引受入保証金)	52,122	99,803
(その他の受入保証金)	219,794	120,697
短 期 借 入 金	26,760	12,820
リ ー ス 債 務	3,552	—
前 受 収 益	—	48
未 払 金	—	15,172
未 払 費 用	18,638	11,116
未 払 法 人 税 等	1,761	4,075
賞 与 引 当 金	10,000	10,026
その他の流動負債	—	4,046
【流動負債計】	2,951,512	2,821,504
【固定負債】		
長 期 借 入 金	34,260	21,440
繰 延 税 金 負 債	4,944	1,934
退 職 給 付 引 当 金	56,720	54,528
その他の固定負債	15,796	15,000
【固定負債計】	111,721	92,903
【特別法上の準備金】		
金融商品取引責任準備金	3,945	3,631
【特別法上の準備金計】	3,945	3,631
負債合計	3,067,179	2,918,038

(2) 損益計算書

(単位：千円)

科 目	前 期 平成 30 年 4 月 1 日から 平成 31 年 3 月 31 日まで	当 期 平成 31 年 4 月 1 日から 令和 2 年 3 月 31 日まで
	金 額	
営 業 収 益	553,760	561,491
受 入 手 数 料	493,304	509,144
ト レ ー デ ィ ン グ 損 益	32,231	23,292
金 融 収 益	28,224	29,054
金 融 費 用	25,791	17,781
純 営 業 収 益	527,968	543,710
販 売 費 ・ 一 般 管 理 費	552,588	543,460
取 引 関 係 費	114,641	117,789
人 件 費	285,919	282,504
不 動 産 関 係 費	37,531	31,828
事 務 費	64,772	59,122
減 価 償 却 費	10,607	13,757
租 税 公 課	8,724	11,108
そ の 他	30,391	27,348
営 業 利 益	△24,620	249
営 業 外 収 益	2,814	3,249
営 業 外 費 用	740	732
経 常 利 益	△22,545	2,766
特 別 利 益	4,043	2,558
償 却 債 権 取 立 益	1,200	—
保 険 解 約 返 戻 金	2,843	—
投 資 有 価 証 券 売 却 益	—	1,358
長 期 貸 付 金 弁 済 金	—	1,200
特 別 損 失	9,628	2,115
固 定 資 産 除 却 損	5,006	—
三 国 支 店 解 体 費 用	4,212	—
金 融 商 品 取 引 責 任 準 備 金 繰 入	409	744
投 資 有 価 証 券 売 却 損	—	1,371
税 引 前 当 期 純 利 益	△28,130	3,209
法 人 税 等	898	1,198
当 期 純 利 益	△29,028	2,010

(注) 「貸借対照表」および「損益計算書」の記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

(3) 株主資本等変動計算書 (令和2年3月31日現在)

(単位：千円)

株主資本		前 期	当 期
		(平成 31 年 3 月 31 現在)	(令和 2 年 3 月 31 現在)
資本金	前期末残高	515,000	515,000
	当期変動額 新株の発行	—	—
	当期末残高	515,000	515,000
利益剰余金			
利益準備金	前期末残高	10,500	10,500
	当期変動額	—	—
	当期末残高	10,500	10,500
その他利益剰余金			
任意積立金	前期末残高	150,000	150,000
	当期変動額	—	—
	当期末残高	150,000	150,000
繰延利益剰余金	前期末残高	317,093	281,345
	当期変動額 剰余金の配当 当期純利益	△6,720 △29,028	0 2,010
	当期末残高	281,345	283,356
利益剰余金合計	前期末残高	477,593	441,845
	当期変動額	△35,748	2,010
	当期末残高	441,845	443,856
株主資本合計	前期末残高	992,593	956,845
	当期変動額	△35,748	2,010
	当期末残高	956,845	958,856
評価・換算差額等			
その他有価証券評価差額金	前期末残高	31,766	11,289
	当期変動額 (純額)	△20,476	△6,871
	当期末残高	11,289	4,417
純資産合計	前期末残高	1,024,359	968,134
	当期変動額	△56,225	△4,860
	当期末残高	968,134	963,273

「個別注記表」

1. 重要な会計方針にかかる事項に関する注記

- (1) トレーディングに関する有価証券等（トレーディング商品）の評価基準および評価方法
商品有価証券等（売買目的有価証券）
時価法を採用しております。（売却原価は移動平均法により算定しております。）
- (2) トレーディング関連以外の有価証券等の評価基準および評価方法
その他有価証券
 - ①時価のあるもの
決算日の市場価格等に基づく時価法を採用しております。（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。）
 - ②時価のないもの
移動平均法による原価法を採用しております。
- (3) 固定資産の減価償却方法
有形固定資産……定率法を採用しております。
ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）及び平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備並びに構築物については、定額法を採用しております。
無形固定資産……自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。
- (4) 貸倒引当金は、債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
- (5) 賞与引当金は、従業員の賞与支給に備えるため、当社所定の計算方法による支給見積額の当期負担額を計上しております。
- (6) 役員賞与引当金は、役員の賞与支給に備えるため、株主総会に上程予定の金額を見込み計上しております。
- (7) 退職給付引当金は、従業員の退職金の支給に充てるため、期末自己都合退職要支給額の100%を計上しております。
- (8) 金融商品取引責任準備金は、金融商品取引の事故による損失に備えるため、金融商品取引法第46条5の規程に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」第175条に定めるところにより算出した額を計上しております。
- (9) 受入手数料および支払手数料につきましては、約定基準に基づき計上処理しています。
- (10) 消費税等の会計処理方法
消費税および地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

2. 貸借対照表の注記

- (1) 有形固定資産の減価償却累計額 158,330 千円
- (2) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

3. 損益計算書の注記

該当事項はありません。

4. 株主資本等変動計算書の注記

- | | |
|-----------------------|----------|
| (1) 事業年度末日における発行済株式の数 | 1,680 千株 |
| (2) 事業年度末日における自己株式の数 | なし |
| (3) 剰余金の配当に関する事項 | |
- 当該事項はありません。

5. 税効果会計に関する注記

繰延税金負債の発生原因は、その他有価証券の時価評価に伴い認識されたものです。

6. リースにより使用する固定資産に関する注記

貸借対照表に計上した固定資産のほか、事務機器、設備投資等の一部については、所有権移転外ファイナンス・リース契約により使用しております。

2. 借入金の主要な借入先及び借入金額

(令和2年3月31日現在) (単位：百万円)

借入先の氏名又は名称	借入金額
岡三証券株式会社	664
株式会社福井銀行	34

(平成31年3月31日現在) (単位：百万円)

借入先の氏名又は名称	借入金額
岡三証券株式会社	955
株式会社福井銀行	61

3. 保有する有価証券（トレーディング商品に属するものとして経理された有価証券を除く。）の取得価格、時価及び評価損益

(単位：百万円)

	平成31年3月期			令和2年3月期		
	取得価格	時 価	評価損益	取得価格	時 価	評価損益
1. 流動資産	—	—	—	—	—	—
(1) 株券	—	—	—	—	—	—
(2) 債券	—	—	—	—	—	—
(3) その他	—	—	—	—	—	—
2. 固定資産	70	86	16	72	78	6
(1) 株券	70	86	16	72	78	6
(2) 債券	—	—	—	—	—	—
(3) その他	—	—	—	—	—	—
合 計	70	86	16	72	78	6

(注) トレーディング商品に属するものとして経理された有価証券を除く。

4. デリバティブ取引（トレーディング商品に属するものとして経理された有価証券を除く。）
の契約価格、時価及び評価損益

(1) 先物取引・オプション取引の状況

① 株式

(単位：百万円)

	平成31年3月期			令和2年3月期		
	契約価格	時 価	評価損益	契約価格	時 価	評価損益
1. 株価指数 先物取引	—	—	—	—	—	—
(1) 売建	—	—	—	—	—	—
(2) 買建	—	—	—	—	—	—
2. 株価指数 オプション 取引	—	—	—	—	—	—
(1) 売建	—	—	—	—	—	—
①コール	—	—	—	—	—	—
②プット	—	—	—	—	—	—
(2) 買建	—	—	—	—	—	—
①コール	—	—	—	—	—	—
②プット	—	—	—	—	—	—

(注) トレーディング商品に属するものとして経理された有価証券を除く。

② 債券

(単位：百万円)

	平成31年3月期			令和2年3月期		
	契約価格	時 価	評価損益	契約価格	時 価	評価損益
1. 債券 先物取引	—	—	—	—	—	—
(1) 売建	—	—	—	—	—	—
(2) 買建	—	—	—	—	—	—
2. 債券 オプション 取引	—	—	—	—	—	—
(1) 売建	—	—	—	—	—	—
①コール	—	—	—	—	—	—
②プット	—	—	—	—	—	—
(2) 買建	—	—	—	—	—	—
①コール	—	—	—	—	—	—
②プット	—	—	—	—	—	—

(注) トレーディング商品に属するものとして経理された有価証券を除く。

(2) 有価証券店頭デリバティブ取引の状況

(単位：百万円)

	平成31年3月期			令和2年3月期		
	契約価格	時 価	評価損益	契約価格	時 価	評価損益
1. 有価証券 先渡取引	—	—	—	—	—	—
(1) 売建	—	—	—	—	—	—
(2) 買建	—	—	—	—	—	—
2. 有価証券 店頭指数等 先渡取引	—	—	—	—	—	—
(1) 売建	—	—	—	—	—	—
(2) 買建	—	—	—	—	—	—
3. 有価証券 店頭オプション取引	—	—	—	—	—	—
①コール	—	—	—	—	—	—
②プット	—	—	—	—	—	—
(2) 買建	—	—	—	—	—	—
①コール	—	—	—	—	—	—
②プット	—	—	—	—	—	—
4. 有価証券 店頭指数等 スワップ 取引	—	—	—	—	—	—

(注) トレーディング商品に属するものとして経理された有価証券を除く。

(3) 有価証券に関連しない市場デリバティブ取引の状況

(令和2年3月31日現在) (単位：百万円)

区 分	委 託	自 己	計
くりっく 365	先物取引	—	—
	オプション取引	—	—
	その他	5,061	—

(平成31年3月31日現在) (単位：百万円)

区 分	委 託	自 己	計
—	先物取引	—	—
	オプション取引	—	—
	その他	—	—

5. 財務諸表に関する会計監査人等による監査の有無

会社法第436条の第2項第1号の規定に基づき、会計監査法人の監査を受けております。

野波公認会計士事務所

公認会計士 野波 俊光

IV. 管理の状況

1. 内部管理の状況の概要

部 名	業 務 分 掌
監査部 監査課	<ul style="list-style-type: none"> ・社内検査または社内監査に関する事項 ・主務官庁等の検査の立会いに関する事項 ・事故および紛争に関する事項 ・有価証券の元引受業務の検査に関する事項 ・利益相反管理に関する事項 ・リスク管理に関する事項 ・日本投資者保護基金および分別保管に関する事項 ・広告審査に関する事項
管理部 管理課	<ul style="list-style-type: none"> ・利益相反に関する事項 ・業務全般のコンプライアンスに関する事項 ・主務官庁等の検査、社内検査、社内監査に関する事項 ・事故および紛争処理に関する事項 ・市場における有価証券の取引状況についての監視ならびに調査に関する事項 ・不正取引の監視 ・有価証券の価格形成に関する事項 ・法人関係情報の管理に関する事項 ・内部者による取引、インサイダー取引に関する事項 ・顧客の有価証券の取引状況の考査に関する事項 ・適正な営業姿勢の維持に関する事項 ・取引報告書、残高照合、取引残高報告書に関する事項 ・役職員の自己取引の管理に関する事項
管理部 業務課	<ul style="list-style-type: none"> ・信用・先物・オプション・発行日取引に関する事項 ・株券の受渡しの総括に関する事項 ・受渡未決済株券および客方未入金顧客勘定の管理に関する事項 ・取引にもとづく金銭および有価証券等の処理に関する事項 ・受渡株券の出納に関する事項 ・有価証券の入出庫および保管に関する事項（含分別保管） ・株式の名義書換え、提供等に関する事項 ・保護預り口座の設定に関する事項 ・金融機関等に対する有価証券の差入れに関する事項 ・自己融資に関する事項
総務部 総務課	<ul style="list-style-type: none"> ・会計監査に関する項目 ・顧客勘定元帳等の法廷帳簿に関する事項 ・現金取引にもとづく金銭および有価証券の処理に関する事項 ・FX取引に関する事項 ・本支店経理の統括に関する事項 ・金銭出納に関する事項 ・資金の調達および運用に関する事項 ・本店および本店以外の支店間の資金の受払いに関する事項 ・預り金の管理に関する事項 ・リスク管理に関する事項

※内部監査については、「社内検査規程」及び「業務監査規程」に基づき、法令・諸規則等の厳守、業務の活動状況、会計処理の状況、その他会社が必要と認める事項について、監査部監査課を中心に定期的に監査しています。

※顧客からの苦情及び紛争等の取扱いについては、「苦情・紛争処理規程」に基づき、管理部管理課を中心に金融 ADR 制度も踏まえつつ、関連部署が連携して、その事実と責任を明確にし、顧客の立場を尊重し、迅速、誠実、公平かつ適切にその解決を図るものとしています。

2. 分別管理等の状況

(1) 金融商品取引法第 43 条の 2 の規定に基づく分別管理の状況

① 顧客分別金信託の状況

(単位：百万円)

項目	平成 31 年 3 月 31 日現在の金額	令和 2 年 3 月 31 日現在の金額
直近差替計算基準日の顧客分別金必要額	1,628	1,825
期末日現在の顧客分別金信託額	1,700	1,910
期末日現在の顧客分別金必要額	1,628	1,832

② 有価証券の分別管理の状況

イ. 保護預り等有価証券

有価証券の種類		平成 31 年 3 月 31 日現在		令和 2 年 3 月 31 日現在	
		国内証券	外国証券	国内証券	外国証券
株券	株数	20,161 千株	1,060 千株	20,065 千株	347 千株
債券	額面金額	417 百万円	1,820 百万円	420 百万円	614 百万円
受益証券	口数	10,956 百万口	— 百万口	14,880 百万口	— 百万口
その他	額面金額	—	—	—	—

ロ. 受入保証金代用有価証券

有価証券の種類		平成 31 年 3 月 31 日現在	令和 2 年 3 月 31 日現在
		数量	数量
株券	株数	1,874 千株	623 千株
債券	額面金額	— 百万円	— 百万円
受益証券	口数	187 百万口	236 百万口
その他	額面金額	—	—

ハ. 管理の状況

有価証券の種類	管理方法
国内上場株券 上場新株予約権付社債券 上場出資証券 上場投資信託受益権 上場不動産投資信託投資口	<ul style="list-style-type: none"> 原則として、株式会社証券保管振替機構（以下「機構」という。機構から委託を受けたものを含む。以下同じ。）において、帳簿等により当社の固有財産である有価証券その他の顧客有価証券以外の有価証券（以下「固有有価証券等」という。）と顧客有価証券とを区分管理し、混蔵して保管しています。顧客有価証券については、当社の帳簿等により各顧客の持分が直ちに判別できるよう管理しています。ただし、顧客の申し出等により機構へ再委託しない国内上場有価証券については、当社金庫又は母店金融商品取引業者において、固有有価証券等の管理場所と明確に区分し、顧客有価証券についてどの顧客の有価証券であるかが直ちに判別できる状態で保管しています。 顧客有価証券について、顧客の指示により名義書換等のため株券を発行会社（名義書換代理人を含む。以下同じ。）へ提供したものについては、当該銘柄、数量及び提供先が委任顧客毎に直ちに把握できるよう当社の帳簿等により適宜管理しています。
国内上場外国株券	<ul style="list-style-type: none"> 原則として、母店金融商品取引業者を通じて機構において、帳簿等により当社の固有有価証券等と顧客有価証券とを区分管理し、混蔵して保管しています。顧客有価証券については、当社の帳簿等により各顧客の持分が直ちに判別できるよう管理しています。
国内非上場株券	<ul style="list-style-type: none"> 当社金庫並びに日本電子計算株式会社において、固有有価証券等の管理場所と明確に区分し、顧客有価証券については、どの顧客の有価証券であるかが直ちに判別できるように、顧客別に保管することにより管理しています。
上場新株予約権付社債券以外の国内債券	<ul style="list-style-type: none"> 国債およびその他の債券の券面不発行分については、母店金融商品取引業者を振替制度参加上位機関として、国債は日本銀行にて、その他の債券は機構において、帳簿等により固有有価証券等と顧客有価証券とを区分管理しています。顧客有価証券については、当社の帳簿等により各顧客の持分が直ちに判別できるよう管理しています。
国内投資信託受益権	<ul style="list-style-type: none"> 母店金融商品取引業者を振替制度参加上位機関として、機構において、帳簿等により固有有価証券等と顧客有価証券とを区分管理しています。顧客有価証券については、当社の帳簿等により各顧客の持分が直ちに判別できるよう管理しています。
外国株券 外国債券 外国投資信託受益証券等	<ul style="list-style-type: none"> 母店金融商品取引業者および取次先証券会社を通じ海外の保管機関において、固有有価証券と顧客有価証券とともに混蔵管理しています。当社の帳簿等により、固有有価証券分と顧客有価証券分とを区分し、顧客有価証券に係る各顧客の持分が直ちに判別できるよう管理しています。

(2) 金融商品取引法第 43 条の 3 の規定に基づく区分管理の状況

① 法第 43 条の 3 第 1 項の規定に基づく区分管理の状況

(令和 2 年 3 月 31 日現在) (単位：百万円、千株 等)

	管理の方法	当期末残高	前期末残高	内 訳
金 銭	金銭信託	—	300	日証金信託銀行
	—	—	—	—
有 価 証 券 等	—	—	—	—
	—	—	—	—
	—	—	—	—

(平成 31 年 3 月 31 日現在) (単位：百万円、千株 等)

	管理の方法	当期末残高	前期末残高	内 訳
金 銭	金銭信託	300	300	日証金信託銀行
	—	—	—	—
有 価 証 券 等	—	—	—	—
	—	—	—	—
	—	—	—	—

② 法第 43 条の 3 第 2 項の規定に基づく区分管理の状況

(令和 2 年 3 月 31 日現在) (単位：百万円、千株 等)

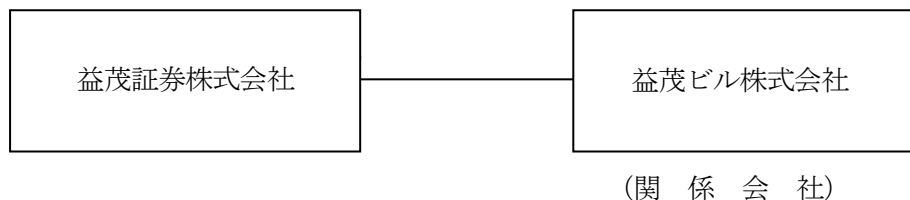
	管理の方法	当期末残高	前期末残高	内 訳
金 銭	金銭信託	20	—	日証金信託銀行
	—	—	—	—
有 価 証 券 等	—	—	—	—
	—	—	—	—
	—	—	—	—

(平成 31 年 3 月 31 日現在) (単位：百万円、千株 等)

	管理の方法	当期末残高	前期末残高	内 訳
金 銭	—	—	—	—
	—	—	—	—
有 価 証 券 等	—	—	—	—
	—	—	—	—
	—	—	—	—

IV. 連結子会社等の状況に関する事項

1. 当社及びその子会社等の集団の構成



2. 子会社等の商号又は名称、本店又は主たる事務所の所在地、資本の額、事業の内容

商号又は名称	本店所在地	資本金	事業内容	当社及び子会社等の所有する議決権の数	子会社等の株主の議決権に占める当該保有する議決権の数の割合
益茂ビル株式会社	福井市順化 2-1-1	70 百万円	不動産貸借業 及び 付帯する業務	7 千株	4.4%

以 上